

データで変わる建設業界～事例から学ぶ本当に価値のあるデータ活用とは～

人材不足問題へのデジタルの挑戦 ～建設業界の持続的成長に向けた デジタルの活用とは～



ソリューション・エンジニアリング統括本部
B2Cソリューション本部
建設・不動産・TTHアソシエイトソリューションエンジニア
阿曾 花梨氏



リテール・コンシューマ&ビジネスサービス統括本部
建設・不動産営業部部長
藤田 啓氏

株式会社セールスフォース・ジャパン

日刊建設工業新聞社10月24日、「データで変わる建設業界」事例から学ぶ、本当に価値のあるデータ活用とは」をテーマとしたオンライン・セミナー「第37回建設未来フォーラム」(セールスフォース・ジャパン協賛)を開催しました。同社の藤田啓氏と阿曾花梨氏が、建設業界の人材不足問題をデジタルで解決するために提供するソリューションを紹介。竹中工務店の佐方寛氏と日特建設の菅浩一氏は、セールスフォース・ジャパンが提供するサービスを生かしながら、事業活動においてデータを効果的に活用していくという視点での取り組みの一端を説明しました。

(図版、写真は各講演者提供)

4月から建設業にも時間外労働の上限規制が適用となりました。この「2024年問題」の本質を考えると、いかんともしがたい労働力不足で建築や土木、各種社会インフラの維持が困難になることがあります。これは企業業界の持続性、国の防災、経済成長に影響を与える問題です。

人材不足という危機に対し、建設業でも作業の自動化やロボットの活用に向けたさまざまな試みが行われています。ただ、大量の製品を繰り返しの作業で生産する製造業と異なり、一品一様の性格が強い建設業での自動化は頭打ちで、引き続き「人への依存度」が高い現状にあります。



課題認識

- ①24年問題とは単に「労働時間削減」の問題に非ず、企業と業界の持続性、更には国の防災や経済成長の問題である
- ②各方面で作業の自動化は進展中も、一品一様の性格が強く「人」への依存度は引き続き高い

「人材を効率的に配置すること」への対応から紹介していきます。現場ニーズに合わせたスキルや資格を持った人材を適材適所に配置することは、本日に必要期間内に必要な人材が割り当てられることができていないという課題があります。先発の案件では効率よく人材配置が行えていたとしても、後発案件では人材確保が難しくなっています。これは、建設業界に特有の課題であると考えています。

人材と仕事の情報は二元化されたデータベースを関係者間で共有できる共通プラットフォームがあれば、人事面談(キャリア)など、処遇改善に必要な情報をデジタルで見える化するようになり、御社における活用方法についてご提案いたしますので、ぜひご連絡をお待ちしております。

二つ目の「人材を枯渇させないこと」への対応では、就職先「安定」を求めると就職先が課題となります。これは技術的難易度の高低に比例して、社会的変化に動いていくことが難しくなっています。また、環境を整備し、当社が求めている人材を確保する必要があります。一方、比較的難易度が低い人材を確保する際には、デジタルの活用が有効です。デジタルによる人材の管理支援は最大のチャレンジです。

デジタルによる人材の管理支援は最大のチャレンジ

「人材を効率的に配置すること」への対応から紹介していきます。現場ニーズに合わせたスキルや資格を持った人材を適材適所に配置することは、本日に必要期間内に必要な人材が割り当てられることができていないという課題があります。先発の案件では効率よく人材配置が行えていたとしても、後発案件では人材確保が難しくなっています。これは、建設業界に特有の課題であると考えています。

「人材を枯渇させないこと」への対応では、就職先「安定」を求めると就職先が課題となります。これは技術的難易度の高低に比例して、社会的変化に動いていくことが難しくなっています。また、環境を整備し、当社が求めている人材を確保する必要があります。一方、比較的難易度が低い人材を確保する際には、デジタルの活用が有効です。デジタルによる人材の管理支援は最大のチャレンジです。

デジタルによる人材の管理支援は最大のチャレンジ

デジタルによる人材の管理支援は最大のチャレンジ

中期経営計画の実現に向けた全社業務データの統合と利用 日特建設株式会社

中期経営計画の実現に向けた全社業務データの統合と活用について説明します。自己紹介になりますが、営業管理システムと技術管理システムを統合するプロジェクトの責任者として、セールスフォース(セールスクラウド)の導入に取り組んできました。

2021年4月に始まった検討から、複数のシステムの中から「行へべき顧客」への訪問に注力する。同9月からのフェーズ1で営業・技術システムの統合、22年5月からのフェーズ1・5でカレンダーや名刺管理システムなどの統合、さらに同9月からのフェーズ2で工事システムの統合にも取り組み、現在のワンプラットフォーム運用が始まりました。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」をテーマとしたセミナーを開催しました。エクセルに入力したデータを取り込んで分析する精度や最新管理のために、データ活用が重要である。また、データを活用することを前提とした業務フローの再構築、業務の見直しや改善も行わなければならない。データは情報であり、一度、経営管理や担当者ごとの工数構築して終わりでなく、ニーズ管理などを行うことが可能となり、変化に対応した改善も求められます。例えば、タスクボードから各担当者の状況把握の負担軽減は、アラートで知らせてくれることも可能になります。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

データの力を引き出す：人間中心の建設DXへの挑戦 株式会社竹中工務店

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

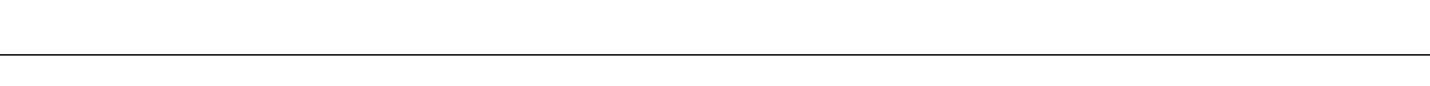
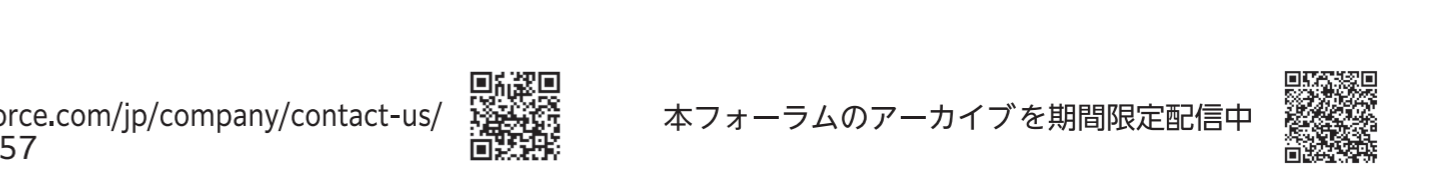
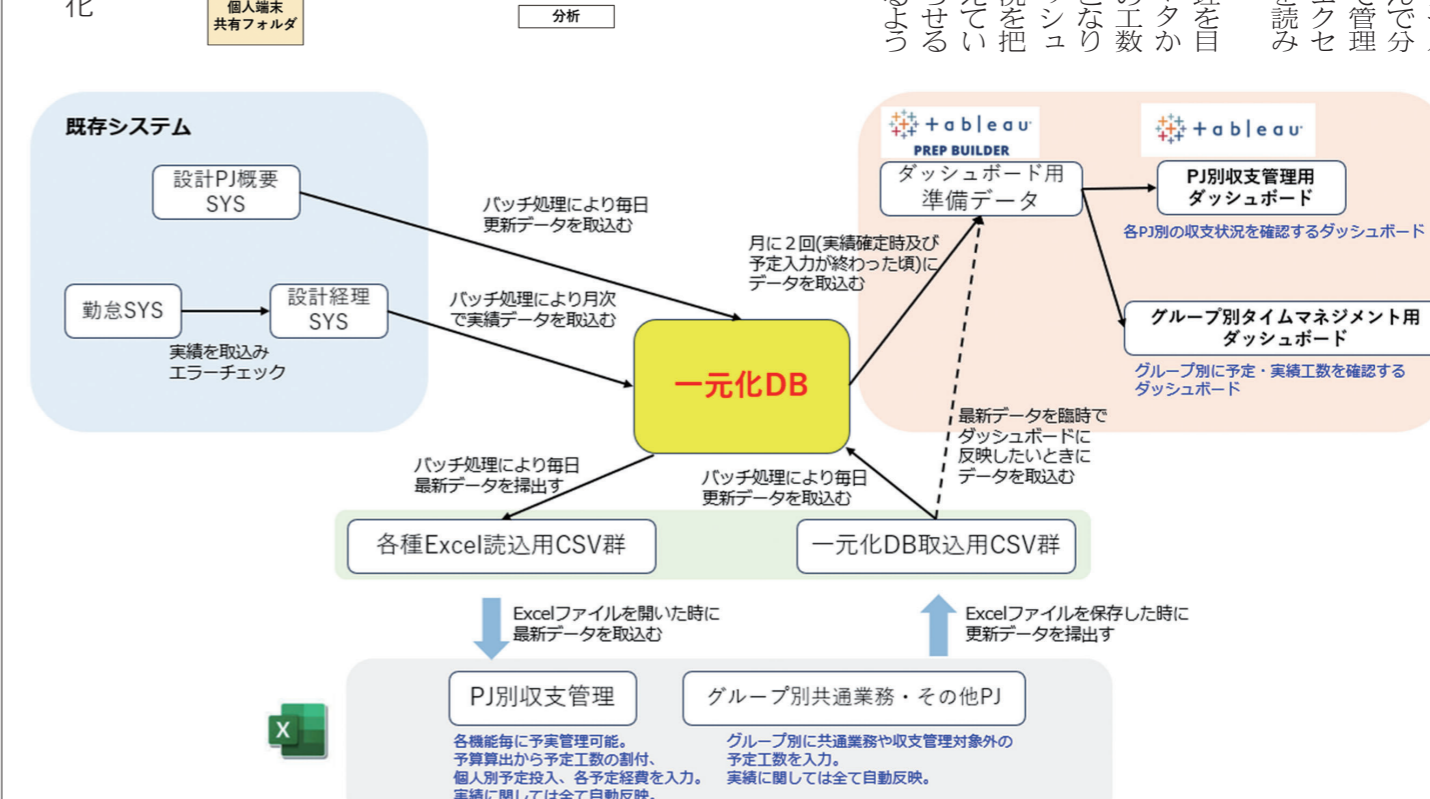
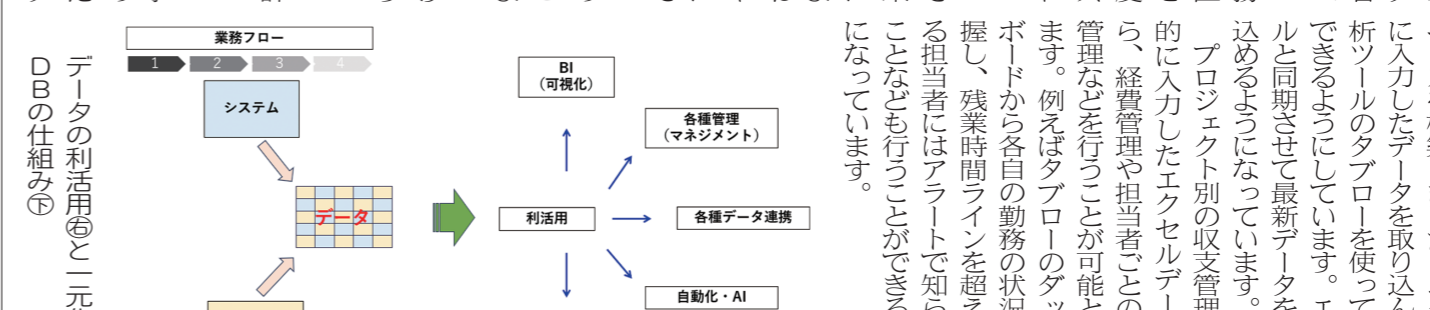
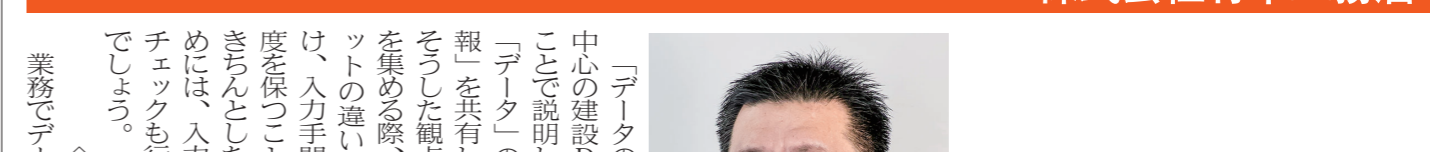
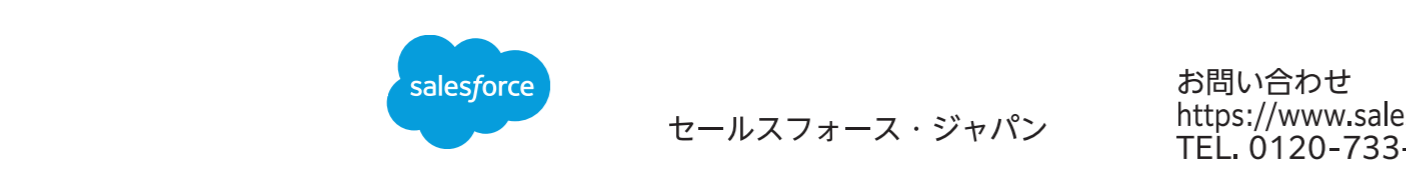
「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。



「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。

「データの力を引き出す。人間中心の建設DXへの挑戦」ということで説明します。業務における「データ」の共有、管理、活用が重要になります。現状では設計部門の中で行っている取り組みを会社全体に広げていくことで、建設DXが加速すると思っております。